

～3歳から楽しめる絵本～

会津若松市の3歳6か月児健康診査で配布している、
会津図書館作成のブックリストで紹介した絵本の一覧です。

『アリからみると』 桑原 隆一/文 栗林 慧/写真 福音館書店

草むらはまるでジャングル。バッタやカエルは恐竜のような迫力です。
身近な昆虫アリの世界を、写真で体験してみましょう。

『あんぱんまんとばいきんまん』 やなせ たかし/作・絵 フレーベル館

1979年出版、ばいきんまんとであう最初のおはなしです。ストーリーは単純明快。
アニメとはちょっと違う、思わず応援したくなるあんぱんまんです。

『うまれたよ!ダンゴムシ』 皆越 ようせい/写真 小杉 みのり/構成・文 岩崎書店

易しい言葉でダンゴムシの成長が描いた、写真絵本です。
身近な生き物や外の世界に興味を示し始めたら、ぜひ読んであげたい一冊です。

『うんちしたのはだれよ!』 ヴェルナー・ホルツヴァルト/文ヴォルフ・エールブルック/絵 関口裕昭/訳 偕成社

ある日、もぐら君の頭にうんちが落下! 怒った彼は犯人捜しを始めます。子どもたちの
大好きな「うんち」、生理現象である排せつを、ユーモアたっぷりに描いた作品です。

『がまんのケーキ』 かがくい ひろし/作・絵 教育画劇

いちごがのった生クリームケーキ。みんなで食べるから今はがまん。我慢している
表情がとてもユーモラス。誰かを思う気持ちがあふれる人情劇です。

『ぐりとぐら』 中川 李枝子/作 大村 百合子/絵 福音館書店

のねずみのぐりとぐらが、大きなたまごでカステラを作ります。物語の自由さと、子どもの
大好きな世界が詰まった絵本です。

『こすずめのぼうけん』 ルース エインズワース/作 石井 桃子/訳 堀内 誠一/画

初めて空を飛んだこすずめの物語です。こすずめを自分と重ねながら、小さな冒険と大きな
喜びを楽しんでください。

『三びきのこぶた』 瀬田 貞二/訳 山田 三郎/画 福音館書店

もとのお話をそのまま絵本化しています。おおかみとこぶたのやりとりからは、物語の単純な
面白さ、昔話から得られる教訓などを感じることができます。

『三びきのやぎのがらがらどん』 マーシャ ブラウン/絵 せたていじ/訳 福音館書店

三匹のやぎが山に行く途中、トルロという怪物に出会い…。言葉のリズムも楽しい絵本です。
物語が理解できる3歳～読んであげたい一冊。

『14ひきのあさごはん』 いわむら かずお/作 童心社

のねずみ家族の朝ごはん。みんなで力を合わせてつくります。ページをめくると広がる一枚
絵。そこにたくさんの物語を見つけることができる絵本です。

『しずかに！ここはどうぶつのとしょかんです』 ドン・フリーマン/作
なかがわ ちひろ/訳 BL出版

動物も本が読みたいかも…という空想から広がっていく物語です。
女の子といっしょに、想像の世界でのびのび楽しめる絵本です。

『じゃぐちをあけると』 しんぐう すすむ/作 福音館書店

じゃぐちをあけると流れてくる水。さわってみよう。どんな感じかな？どんな音がする？
どんな形？身近な素材で科学実験しませんか。

『だいくとおにろく』 松居 直/再話 赤羽 末吉/画 福音館書店

民話の語り口が面白い絵本です。普段聴きなれない言葉や、昔の日本を想像させる絵や
物語は、豊かな空想の世界に連れて行ってくれます。

『だるまちゃんとてんぐちゃん』 加古 里子/作・絵 福音館書店

だるまちゃんは、てんぐちゃんの持つすてきなものを、自分でも欲しくなって探します。
お友だちや、“持ち物”にも興味深々な子どもたちへ、読んであげたい絵本です。

『てぶくろ』 エウゲーニー・M・ラチョフ/著 福音館書店

おじいさんが落とした手袋に動物たちが次々と入っていきます。現実では起こりえないことを
楽しめるのが、子どもの想像力であり、絵本の力です。

『ひこいちばなし』 おおかわ えっせい/文 みたげんじろう/絵 ポプラ社

『てんぐのかくれみの』の民話です。機転の利いたセリフや行動が面白いとんち話は
3歳以上だからこそ楽しさがわかります。

『ひとまねこざる』 H.A.レイ/文・絵 光吉 夏弥/訳 岩波書店

おさるのじょーじのお話です。好奇心旺盛で子どもの分身のようなじょーじの起こすいたずら
と
予想外の展開に読んでいて楽しくなってきます。

『ピン・ポン・バス』 竹下 文子/作 鈴木 まもる/絵 偕成社

路線バスに乗る人々の様子や信号待ちをする働く車など町の風景が細かく描かれている
ので、たくさんの発見があるのりもの絵本です。

『ぶたのたね』 佐々木 マキ/作・絵 絵本館

ぶたを捕まえたことのないオオカミは、ぶたが実るという木の種をもらい…？
想像外のことが次々におこるナンセンス絵本の世界。意味などは考えず、空想の自由さを
楽しんでください。

『よかったねネッドくん』 レミー・チャーリップ/作 やぎた よしこ/訳 偕成社

「よかった！」と「でも、たいへん」の繰り返し。色の仕掛けも見事です。ネッドくんは無事
パーティーへ行けるのか。ハラハラドキドキのお話です。
